

各位

上場会社名 株式会社 アイビー化粧品  
代表者 代表取締役社長 白銀 浩二  
(コード番号 4918)  
問合せ先責任者 取締役 経営管理部 部長 中山 聖仁  
(TEL 03-6880-1201)

## 繰延税金資産の取崩しおよび業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、令和5年3月期において繰延税金資産を取崩します。また、あわせて令和5年2月9日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

### ● 業績予想の修正について

令和5年3月期通期個別業績予想数値の修正(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,100	△100	△110	△150	△37.00
今回修正予想(B)	2,942	△18	△21	△384	△85.19
増減額(B-A)	△158	82	89	△234	
増減率(%)	△5.1	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (令和4年3月期)	3,534	83	81	40	2.33

#### 修正の理由

令和5年3月期につきましては、新型コロナウイルス感染症のオミクロン株が猛威をふるいましたが、比較的重症化する人が少なかったこともあり、その影響は徐々に緩やかになっていきました。しかしながら、当社が行っている各種研修については、まだまだ従前のように開催するまでには至らず、新規販売員の増設、新規顧客の獲得は不調に推移しました。

当社の売上の中核を構成しているスキンケアについては、浸透美活液「レッドパワー セラム」は、目標30,000セットに対し、18,114セットの受注にとどまりました。「ホワイト パワー セラム」につきましても、目標30,000セットに対し、22,341セットの受注にとどまりました。また、例年9月と3月は、比較的売上の多い月ですが、受注が振るわず、それ以外のレギュラースキンケアは大不調で推移し、スキンケア全体の売上高は2,047百万円(対前事業年度比19.9%減)となりました。

売上原価については、原料・資材価格の高騰はありましたが、比較的早めに仕入の手立てを打ったこと、廃棄損を少なくする手立てを打ったこともあり、売上原価率は28.2%(前事業年度31.4%)と想定よりも低くなりました。

販売費及び一般管理費については、年度を通じて経費節減に努めました。また、退職給付引当金や貸倒引当金などの見積費用がそれぞれプラスの方向に振れたことで、販売費及び一般管理費は2,129百万円(対前事業年度比9.0%減)となりました。

その結果、令和5年2月9日に開示しました令和5年3月期の通期予想につきましては、売上高予想3,100百万円を2,942百万円に、営業損益予想▲100百万円を▲18百万円に、経常損益予想▲110百万円を▲21百万円に修正いたします。

また、直近数年間、当社の経営計画と実績の乖離が大きいことから、将来における課税所得見通しを極めて保守的に見積りました。その結果、繰延税金資産を全額取り崩したため、当期純損益予想▲150百万円を▲384百万円に修正致します。

(注1)本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(注2)1株当たり当期純損益の計算は、第3回新株予約権の権利行使およびESOP(株式交付制度)の付与による影響を加味し、普通株式の期中平均株式数を計算しております。また、当期純損益からA種優先配当の会計期間に係る支払想定額を控除しております。

(注3)繰延税金資産を取り崩すにあたり使用している課税所得見通しについては、極めて保守的に見積もったものであり、当社が計画している中期経営計画の数値とは異なります。